

9 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録 （ 要 点 ）

日 時	令和5年9月29日（金）10時01分
場 所	庁舎第3別館2階 会議室
出席委員	教育長 小澤和樹、委員 山本泰正、委員 長井俊朗 委員 竹田美和、委員 野間真美
会議に出席した者の職・氏名	副教育長 秋山直人、教育政策局長 正岡靖彦 教育大綱推進課長 鳥生幸司、学校教育課長 井上洋、 生涯学習課長 畑紀輔、学校給食課長 阿部孝文、 教育大綱推進課長補佐 崎山憲一
傍聴人	一般1名
議 題	議案 議案第43号 学校給食運営審議会への諮問について その他1 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について 午前10時01分、開会を宣す
小澤教育長	日程番号1、8月臨時教育委員会及び8月定例教育委員会の会議録を承認してよいか問う
竹田委員	臨時教育委員会の議事録の2ページ。私の発言の中の一番最後、また全学年で習った漢字の「全」を、前の学年ということで、「前」に訂正していただきたい。
小澤教育長	他にないか問う
－各委員－	意見なし
小澤教育長	承認してよいか問う
－各委員－	承認する

小澤教育長 日程番号2、会議録の署名委員に、竹田委員、野間委員を指名する。

小澤教育長 日程番号3、教育長報告を行う

小澤教育長 質疑はないか問う

竹田委員 9月1日の中学生の海外派遣事業報告会に出席しました。中学生が、全て英語で研修成果報告をする素晴らしい報告会になったと思います。私だけが聞くのは、もったいない気持ちでしたので、来年度、他の教育委員も出席できる機会を設けていただけたらと思いました。

小澤教育長 ありがとうございます。徳永市長も出席しておりました、素晴らしいという声を何度も発していらっしやいました。

本当に子どもたちは、良い研修成果を報告したと思っています。

他にございませんでしょうか。

野間委員 運動会は、お昼までの所が多くなって、先生方も親御さんも負担が減って、寂しさもあるかもしれないけれど、良いことと思えました。また、子どもさんがいる先生も多いと思うので、開催日を分散できるのであれば、自分の子どもの運動会に行けて、働きがいがある仕事として、喜ばれる方もいるのではと思いました。

山本委員 運動会をいつ開催するかの決定権は、校長先生にあるのですか。

小澤教育長 はい。そうですね。

山本委員 9月でも、連日熱中症警戒アラートが出るような状況です。運動会をいつするのか、インフルエンザの流行の心配もあるでしょうが、涼しくなってから行うなど柔軟に考えないといけない時期が来ているのではないかと思います。

それと我々が出席した方が良い行事の案内は、もう少し早くしていただいた方が出席しやすいと思います。最低、1カ月以上前でないと、予定を調整出来なくなるので考えていただきたい。運動会のご案内をいただいても、出られなくなってしまふ。

小澤教育長

学校の行事につきましては、運動会、修学旅行、入学式、卒業式等、年度初めに決まっているようなものにつきましては、あらかじめご報告させていただきまして、その中で、ご都合のつくときにご出席いただくようお願いをさせていただきます。

秋山副教育長

定例教育委員会の開催も、今年度から1年間日程として示させていただいているように、出席をお願いしたいものをスケジュール表にしてお示しをさせていただきます。目安として1か月前にご案内できるよう努めていきたいと思っております。

ただ急をお願いをしないといけない場合はご了承いただけたらと思っております。

小澤教育長

熱中症対策ですが、コロナ禍の3年間は、やはりコロナ対策が一番優先されており、学年別に演技を行ったり、テントは立てず密にならないように実施していました。今年は特に暑かったので、テントを立てて密にならないようにしている学校や、運動場の周りの木陰に、保護者や地域の方が椅子を持ってきて観戦して、ご自身に関係がある演技の時にトラック周りに寄るなどしている状況がありました。玉川中学校では、熱中症対策を一番に考えてテントを張っていましたが、以前のような席の奪い合いはなく開催できたというご報告もございました。

また、教職員自身の子どもの運動会や卒業式などと重なる場合がございます。卒業生の担任など、どうしても抜けられない状況でない場合は、その時間だけ抜けるなど、各学校で配慮している状況がございます。

長井委員

先ほどの野間委員のご発言の件ですが、学校が年間スケジュールを決めていく中で、運動会は、そこから受験に切り替えるとか、修学旅行との関係などで、割と節目となっています。

全体の中で、教員はどうしてもルーティンでここだと思いがちなところは確かに事実ですし、実際に楽な面もございますが、こういう暑さの時代ですので、現場の校長先生方が柔軟に対応していただいたらいいのでは、一度発想の転換を図ってみることが大事かなと思っております。

また、かつての教員採用試験から、かなり倍率が下がっているところがあるのですが、肌感覚として、研修など色々な場面で難しい面が出てきているという感想を教育委員会としてお持ちでしょうか。それとも、倍率は下がっているけれど、それぞれ一生懸命頑張っていて、何とか踏ん張っている感じなのではないでしょうか。

小澤教育長

県の教育委員会も、愛媛の教員を確保するため、他県の大学に行き教員採用の説明会を行ったり、東京や大阪を試験会場にすることで、愛媛に縁もゆかりもない他県からの方も増えてくるなど努力して取り組んでいただいております。一方で、愛媛で採用になったものの、1年後に、やはり地元に戻りたい教員が、以前よりは増えてきております。

本市も、県とは別に独自で新採教員の研修を8月に行いました。そういった中で教員の意識とか表情とかで、頑張っていると感じることもございます。また12月にも面接を行います。色々様子等を伺うのですが、やはり知識とかスキルとは違った対人関係能力とか、社会の一員としてのあり方で、若干、子どもたちに向かったときに、組織の中で働く時にいかがかなという方もいらっしゃるの事実でございます。

他にございませんでしょうか。

—各委員—

意見なし

小澤教育長

承認してよいか問う

—各委員—

承認する

小澤教育長

<議題審議>

「議案第43号 学校給食運営審議会への諮問について」説明を求める

阿部学校給食課長

—「議案第43号 学校給食運営審議会への諮問について」説明—

小澤教育長

意見がないか問う

竹田委員

この中で給食費を実際払っているのは私だけなので、意見させていただきたいと思います。

今まで、給食費の値上げをせずに頑張っていたいただいて、すごく感謝しております。その中で、今回の値上げは、もう避けられない状況なのかと思います。ただ一つ気になるのが、今治市の給食費にばらつきがあるところです。給食運営審議会の委員を何回かさせていただきまして、何度か給食費の統一を議論されたことがあったかと思えます。その時は、もちろん低い方に合わせてという話だったと思うんですけど、今回は高い方に合わせるしかな

いのかなど。ただ、関前の255円をいきなり上げると、ちょっとしんどいところはあると思いますが、これプラス10円で本当に大丈夫なのかなと思ってます。

また、一律プラスしていくと、また格差やばらつきが出てくるので、値上がりを検討している今、この統一を図っていてもいいんじゃないのかと思っております。

もう合併してから18年経っているので、今治市として統一した方がいいような気はしています。近隣市の学校給食費に比べても、値上がりしてもまだ安いという状況なので、もう少し値上げを考えてもいいのではないのかなと思います。給食費は、中学校だったら月に4500円、小学校が4000円ぐらいでしょうか。毎月定額で支払っておいて年度末の2、3月で調整をすることとなっていますが、実際には調整後の2、3月は支払いがない状況です。

それであれば、1食あたり10円、20円の値上がりはするんだけど、月の徴収額が4500円、4000円が変わらず、最後の2、3月の調整額で、今までほとんど払わなかった給食費を、少し払うような形で持っていけば、あまり保護者が負担を感じないような値上がりの仕方ができるのではと思いました。

阿部学校給食課長

まず、平準化のことにつきましては、市内21調理場で、その地域の地産地消を進めるために献立が異なり、また地域の食料品店で仕入れることとしているため、単価が異なっています。

ただ、平準化につきましては、料金改定と合わせて当然検討していかないといけないと考えております。

値上げについてですが、食パンと牛乳は、すでに20円値上がりしています。新聞でパンの回数について掲載がありましたが、市内21調理場では、パンの時には献立を少し充実させるよう考えております。市内では、合同パンさんで作っていただいておりますが、朝2時頃から作業され、温かいパンを10時、11時に届けていただいているという苦勞もされております。パンの回数を減らすと会社の存続にも関わるので、色々な面から値上げ幅を、考えさせていただきたいと思っておりますので、ご理解をお願いします。

正岡教育政策局長

補足説明させていただきます。先ほど竹田委員から値上げ幅10円とお話いただきましたが、これは平成26年4月1日の値上げが10円ということになります。

それで、表の3の市の支援というところをご覧いただけたら、令和5年度の予算額のところの右端で、令和5年10月から令和6年3月で1食あたり約39円上がっている状況でございます。少な

くとも約40円は上げないと、この物価高騰に予算が追いついていけないということで、今後の検討幅としては40円から50円となる可能性としてある状況でございます。

それで、先ほどの標準化の話ですが、例えば50円アップすると、関前の金額が300円になりますが、270円に合わせて、その差額分は、市長部局から何とか補助ができないかなど政策的な判断になって参りますので、そういったことも含めて、今後検討を進めたいと考えておりますのでご理解いただきたいと思ひます。

小澤教育長

竹田委員、よろしいでしょうか。

竹田委員

失礼しました。勘違いしておりました。

もちろんその40円から50円の値上げをしないと間に合わないのであれば仕方ないというか、するべきだと思います。

その中で、やはり今治市内の給食費として、同じ値上げ幅でなくとも、最終の金額を合わせていただきたいなと思ひます。

長井委員

値上げすることについて説明をきちんとするのは、かなり難しい作業になると思うのですが、長い目で見ると竹田委員のおっしゃるように、同じ市内でそろえておくのがよろしいかと思ひます。いろいろ大変でしょうけど、金額を検討する機会はそのはないと思うので、丁寧に説明をされて納得が得られる形ができれば、統一する方向で考えていただきたらと思ひます。

小澤教育長

ありがとうございます。

野間委員

値上げというのは、保護者の方にとっては負担だと思ひますが、まず調理場によって5円単位で値段が違ふというのは、各事業所が一生懸命計算された誠実さの表れだと思ひました。先ほど、それぞれの地域で納品されている地元の業者があるとのことでしたが、先月広島の給食業者で突然給食の提供ができなくなったというようなこともあり得るので、値上げは、保護者の方には大変ですが、納品する業者やそこで働く方にも負担にならないように、持続可能な今治市というところを強調していけばいいのではないかと思ひます。

小澤教育長

ありがとうございます。

秋山副教育長

野間委員さんから広島の給食業者のお話がありましたが、今治

市の状況をこの機会に報告をさせていただきます。

阿部学校給食課長

広島の場合は、ホーユーさんという広島の業者で、愛媛では新田高校の給食を提供されておりました。調理洗浄業務と食材の調達まで委託していたようです。

今治市の場合は21調理場のうち、夢づくり調理場だけが業務委託しております。食材の調達は市がしており、調理洗浄業務だけを委託していますので、特に問題はないと思っております。

また、委託先のメフォスという会社は、資本金自体も広島の1,000万に対し、10億円あるような大きい業者であります。親会社も大きいところですよ。

もし、広島と同様なことがあったとしても、履行保障を立てており、給食の提供が滞るようなことはありませんし、決算書についても、毎年決算が終わり次第提出いただき、必ずチェックしておりますので、そういった面でも、問題ないと考えております。

小澤教育長

他に意見がないか問う

—各委員—

意見なし

小澤教育長

承認してよいか問う

—各委員—

承認する

小澤教育長

「その他1 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について」説明を求める

井上学校教育課長

—「その他1 令和5年度全国学力・学習状況調査結果について」説明—

小澤教育長

質問はないか問う

山本委員

今の課長の言われたように、PDCAのCとDをきちんとお願いしたいと思います。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の提供及び評価報告書をいただきました。この最終版で学識経験者の皆さん方が、いろいろ答えている中で特に大事だと思うことが、16ページに書かれています。「新たな時代を切り開く人材の育成は、一人一人

の個性を伸ばす教育というものだと思います。学力テスト等の結果から対策を考えるのは、全国平均以上の学力を身に付けさせることが、誰一人取り残さないということのように捉えているのではないかと取られてしまいそうです。」と余韻を残してご発言されていますが、行間を読み取ることは、とても大事だと思うのです。点が平均点以上かどうか議論をしているわけではなく、結果に至る過程、すなわち学校で、新しい学習指導要領やG I G Aスクール構想が、なぜ制定されて対応を急がなければならなくなったのかなど、教育委員会は真正面から受けとめる。そして、学校の指導や児童生徒の支援を、学習指導要領がめざすねらいに沿うように、今治市の特徴を出しながら、どう学校で研鑽していくか。学校の校長先生のカリキュラムマネジメントを、きちんと教育委員会がとらえて、そしてPDCAをまわしていく。そのことが結果として点数に現れるのであって、点数を取ることがねらいではないという大事なことをご心配されていると感じます。そのことに対しては、我々も十分認識し、学校の先生方に指導する時には、心しておかなければいけない。また前の、黒板に向かって、先生の言う通りに記録して、暗記して、知識を貯める。こういう教育に戻ってしまったのでは大変なことになる。それこそ時代遅れの、人間を育むことになったのではいけないのです。教育委員になって2年が過ぎますが、教育のことについて勉強して十分わかりました。だから今、向いている方向というのは、ものすごく大事なことなのでしっかり押さえてほしい。

他にも、ベストミックスという言葉がありますが、これは、ICTのタブレット端末も使うけど、本筋は、対面で使い分けていくといった簡単な議論ではない。今の教育改革をするためにはこのICTをツールとして使い切らなければ、主体的な或いは探究的な深い学びを実践することはできないのだから、両方とも大事だと認識した上で、この言葉を使わないと大変なことになる。

この点数のことと併せて、お互いに確認しあっておかないといけない、意見が違えば議論し、今治市教育委員会の学校に対する支援指導や助言等の方向が、きちんとコミットしてないんだったら修正しないとイケないと思っています。

小澤教育長

ありがとうございます。

ただ単に子どもたちに知識技能を植え付ける。身につけさせるためにと言うのではなく、子どもたちに、よりよい学びをするための灯をつけるといった取り組みが大事かと思っています。

ただ単に知識、理解があるから、今後、社会でより良い生き方

できるかといった時には、それ以外のいろんな大事なものがあると思いますので、そういった生きる力を身につけさせることが大事だと教育委員会でも認識しておりますので、そういったところ学校と一体となって取り組んで参りたいと思っております。

他にございませんでしょうか。

長井委員

山本委員のご意見に付け加えさせていただきます。

実際現場で教員をしておりました時に、ドリルとか暗記とかは悪い方に言われることですが、プラスの面も確かにあるのです。生活習慣をつけるとか、少し解けるようになったという自信が、子どもたちを変えていくという面もありますので、一概に過去問を解くということもありますが、高校現場でしたら、そういうドリルがいけないと否定するものではないんです。ただ、最終的には、結局、将来的に使えるように自分で考える力をつけるような形で授業を展開していくべきなんなんではないでしょうか。

ここで一つ視点として、子どもの生活習慣というのは、本人の力ではどうしようもないところがあるんです。学力や人間的な力をつけていく上で、非常に重要なことだと思います。同じ時間に寝ていますか、朝食をとっていますか、読書をどのぐらいしていますか、新聞を読んでいますかといった質問が挟まれています。少しパーセンテージが低いところがございます。児童生徒にとっては本人の責任じゃないところの部分もあり、学校の先生にどこまで要求するのかという部分もあって難しいのですが、長い目で見ていくと、習慣を形成することが、本人の学力を向上させていく点があると思うのです。

これまで校長中心にそういうようなことは考えてくださったのですが、改めて点数とか授業方法だけに焦点を置くのではなくて、実は大きなそういうところに焦点を当てておくと、少しずつ子どもの生活を改善していくことが、結局は総合的な力をつけていくことに繋がるのではないかと思います。

もちろん理想論で、なかなか難しい面はそれぞれあるのですが、その視点を忘れずに、最終的には考えさせる授業、これを最終ゴールとして頑張っていたらというふうに思ったりはします。

小澤教育長

ありがとうございます。
他にございませんでしょうか。

野間委員

子どもを育てた者として思うのは、その限られた先生方の教え

る時間の中で、より効率のよい教え方を指すためのツールとして、この結果を取り上げたらいいんじゃないかと思うのです。

例えば小澤先生は数学の先生だと思うのですが、12ページの算数の問題でお聞きしたいのですが、この $\boxed{3}$ の(3)は今治市が正答率がよかったとあるのですが、例えばこのけんたさんの問題だったら、①と②の答えは、子どもたちは両方計算をして書いたのか、それともこの①と②の答えは一緒だから、①の答えが出たら同じ答えの②を書いた、それで正答率が高かったのかどちらだと思いますか。

151と49足したら200ですよ。掛ける3が600とすぐ出るから、分けて 151×3 と 49×3 が一緒だとわかっている子はもう、②も600と書いて、次の問題に進めるわけですよ。それで今治市は正答率がよかったのか、それとも暗算が早い子が多くて、全部両方真面目に解いたからよかったのか。

②ですが、6年生の子どもたちは、その通り $(151 \times 3) + (49 \times 3)$ と計算するのですか。それとも一番と同じと思って600と書くのが正しいのか。

小澤教育長

分解して考える方が良い場合と、分配法則しないでそのまま200のまま計算した方が便利な場合は、違いが出てくると思うのです。その状況を授業で説明する。要は、便利さをその時によって使い分けることを子どもたちに身につけさせる必要があると思います。

野間委員

今治市の①②両方の正答率が全国平均より高いんだったら、そういう要領よく考えられる子が多かったのかなって思うのです。

小澤教育長

要領を覚えるのは、やはり指導者からくるかと思われるのです。そういったところを身につけていると、この単なる数学の数式の処理ということだけでなく、対人関係、対人で話し合う時に、そういうところを分けて考えるとか、物事を一緒にしていくとかそういったところの、やはり生きる力に繋がる場所を。

野間委員

$\boxed{4}$ も、テープの高さが一緒ということを知っていたらすぐ答えられるけど、面積の計算方法は知っていても思いつかない、普段こういう問題をよく解いていないと難しかったりするので、分かっているけど点を取れない、惜しいところにいる子もいっぱいいると思うのです。山本委員がおっしゃられているPDCAのCが先生の仕事に当たると思うので、自信をつけるために結果をあげる

ことが必要だったら、こういうテスト問題に慣れるために、復習に力を入れたらいいと思います。

小澤教育長

③ (3) のけんたさんの分配法則は、中学校で習うのです。②の底辺が共通で高さが等しい三角形の面積はすべて等しいですという考え方も、中学校の方が処理しやすいのです。一番難しいのは小学校の5、6年生なんです。割合なども、中学校になると、逆数を覚え、 $6 \div (2分の3)$ は、 $6 \times$ 逆数にして、(3分の2)というような処理がしやすくなります。小学校5、6年生の算数というのが、今後の数学などで一番大事で、このような計算の過程をいかにするかといったところの授業が、やはり教員の指導力によると思うのです。

I C Tで、ボタンを押して答えが出るようなものもあると思うのですが、計算の過程で、子どもの答案のいろんな考え方を、教科書にない考え方だからとバツにするのか、そういう考えや発想もできるんだねと、子どもたちを称揚するのか、そういった答えに辿り着くまでの教職員と子どもたちの関わりや、いかにその課程に子どもたちを入り込ませるかという説明は大事になってくるのかなと思われます。

山本委員

今の野間委員のお話しは、非常に大事な点をつかれていると思います。C B T、このアクティブラーニングの機能というのは、I C Tが小学校の時に、中学校に習うところの基礎の考え方を指導する。それを先生が変わっても、この子どもさんはこの箇所がわかっていないから指導しようというふうに、C B Tが教えてくれる。そして類似問題を生徒に渡して習得させる仕組みが提供される。そういうC B Tの役割が、非常に重要な役割であると思うのです。だから、そういう疑問がすごく大事だと思います。

頭の賢い子だったら、小学生でも中学校の考え方で、全部同じ答えだとなるかもしれませんが、その前の段階のところはきちっと理解させるというのを平準化していく。そして個人個人の発達段階に合わせて指導していくというのが、このC B Tの役割として、備わっていると理解しています。

小澤教育長

ありがとうございます。

竹田委員

漢字の部分が弱いというところですが、私たちも、最近はパソコン、スマホやタブレット等に慣れているので、漢字を読めるけど、書く時にパッと出てこないのが日々感じるところです。やは

り書いて覚えるっていうところが、一番大事なところだとは思っているので、漢字を覚えるためには、漢字を实际書かないといけない。そういった学習の方法は、小学校、中学校でももちろんしていると思うのですが。娘も、夏休みの宿題で作文を書くのに、作文用紙に書くのではなく、まずスマホに下書きをしていくというような形で、今の学習の方法は違うのかなと思ったりしました。やはり、書くということは、これからも重点的にやっていただきたいと思えます。

あと敬語です。これは、私たち大人でも悩むところがあったりします。やはり敬語というのは、社会に出てからも使っていくものなので、小学校の時に習って、きちんと使えるように理解を深める学習の仕方を見直していただけたらと思えます。

算数については、私たち大人は数学を知っているから、大人が小学生に算数を教えるのは一番難しいと思うのです。簡単に解けるところを、難しく教えないといけないというところで、その中で、子どもたちが、きちっと理解しながら計算していける。野間委員さんがおっしゃった³の問題に関しては、小学生はおそらく①も②も、正当に解いていったのではないかと思います。そういったところも、授業の中で、同じ答えになるんだよというのを小学生の時に基礎として教えられていることが良い結果になったのではないのかと思えました。

小澤教育長

ありがとうございます。

先ほど井上学校教育課長の報告で、小学校国語では漢字の書き取りが弱かったというところですが、これは意外でした。朝の会でも充実した取り組みをしていると思っていたのですが、学校の方に聞きますと、やはりタブレットの方に時間のウエイトがくることによるというようなことでした。特に小学校の低学年というのは、やはり筆圧とかを感じながら、また書き順を意識しながら書くことによって、より漢字が、頭に残るっていうのは、あるのかなと思えます。そういったところの昔からある、読み書きそろばんも大事にしつつ、発達年齢に応じたタブレットの活用で、アナログとデジタルのより良いところを、使っていく必要があるのかなと思えます。というところで、今治の小中学校の朝の会の取り組みを、学力向上に向けてどういったことをしているのか調査いたしました。学校の規模とか、子どもたちの特徴にもよると思うのですが、実際に効果のあったところを、今後、教育委員会が、各学校でのこういった取り組みが成果を上げていますとお伝えして、それぞれが横展開できるように、良い取り組みを広げてい

きたいと思っているところです。

山本委員

これは意見ではなく要望ですが、学校教育課のホームページへのPDFファイルの掲載方法を、昨年度と同じようにダウンロードしなくても見られるようにしてもらえないでしょうか。

秋山副教育長

学力調査の結果を2日に正式発表させていただくので、また見ていただけたらと思います。

長井委員

昔の教員に比べて今の教員は、たくさんやらなくちゃいけないことがあります。タブレットにしても、英語の教育にしてもですが基本的にはプラスのことが多いというのは、屋上屋を重ねることになりやすい。あれ出来てないこれ出来てないと言っていたら、現場は疲弊してしまいますから、何かを削りながら、効率よくやっていくしかないわけですが、その中でも結果を見てみると、ICT機器の利用が十分ではない、あるいは将来英語を使いますかの項目で、全国平均や県平均とすごく差があったりしていますので、早急に広げていかなくちゃ改善できないところかと思いました。

最終的には、小学校の質問で、「自分で計画を立てて勉強していますか（学校の授業の予習や復習を含む）」、このポイントも全国や県と比べても低い。学習というのは、この点が根っここのところに帰っていくのではないかと思います。現場の先生方、ご苦労があり大変だと思いますし、働き方改革の件もごさいます。だからこそ余計に効率の良い考える力を身につけさせる授業を展開する、そういった現場を応援していただいて、何とか良い形になっていけばいいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

小澤教育長

ありがとうございます。

この調査は4月でございます。ICTの活用等、本市は低い結果になっておりますが、スタディサプリのこの夏休みの活用というのは、すべての中学校がかなり利活用しておりました。来年度は、ICTの活用が上がるものと期待しておりますので、ご期待よろしくお願ひいたします。

他にございませんでしょうか。

—各委員—

意見なし

小澤教育長

午前11時12分、閉会を宣す

以上、会議の次第を記し、その相違ないことを証するため署名する。

竹田委員 竹田 美和

野間委員 野間 真美